



景観変容が著しい神楽坂

牛垣さんはこのような都市空間の変容に関して研究されている。

手助けもしています。また外部の大学では幾つか講義も受け持っています。

— 何故現在の専門分野について興味をもったのですか

そうですね、大学二年生の時に指導教員であった佐野先生の授業を受けた事がきっかけですね。その授業では都市地理学の基礎について学びました。特に興味深く感じたのは、東京などの都市は一見無秩序に見えるけれど実は、一定の法則があったという事です。

— 学問の道を志そうと思ったきっかけは何ですか。

— なるほど。

高校二年生の時、家庭科の瀬田先生の授業でレポート課題が出され、私は差別問題を取り扱ったんです。その時、このテーマは自分の生の仕事にしようと思ったんですね。今思えば瀬田先生のお陰で今の私がいるのかなと思いますね。

— なるほど。しかし、牛垣さんの専門は都市地理学ですが、差別問題からは遠い様にも思いますが。

都市って人の集まりですよ。そこでは差別含め色々な問題が起ります。地理学ではそれを二つのへ八コクとして捉えるんです。それを通して問題を解決したり、そこで生活している人が快適に暮らせる、都市地理学とはそういう学問でもあると思うんですね。

— なるほど。ではそのレポートは牛垣さんにとって大きな分岐点になったわけですね。

はい。当時、このレポートは今後アクションを起こさなければ何の意味もないものになってしまっけれど、何か起こせれば素晴らしいものになると。その為にはこれからの自分の行い次第だ、と強く思いました。

— では次に高校の頃の思い出などお聞かせください。

私は三年間野球部だったんですけど、最後の大会でベンチ入りは出来たのですが結局試合には出られませんでしたね。失敗したときの周りからの反応が怖くて、、技術的な事よりも精神的な弱さが大きな原因だと思います。ちょっと苦しい思い出ですね(苦笑)。